

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

「つながり」を大切に

校長 澁谷 一 男

「つながり 高め合い みんなでつくる 瑛玖良校」— 以前にもお伝えしたとおり、今年度、30年振りに教育目標の改定を行った。今年度、全ての教育活動は、この教育目標の達成に向けて行われている。

新しい教育目標で大事にしたかったことのひとつが、「シンプルで覚えやすいこと」だった。学校が目指す教育の理念や指針である教育目標を教職員が覚えていなかったり、保護者や地域の方々が知らなかったりするという現状が少なからずあると感じていたからである。2学期の初めに改めて新しい教育目標について確認し、各教室や玄関、職員室前などにも掲示した。現在、教育目標を言えない教職員は皆無である。子どもたちも大多数が覚えてくれているだろう。

教育目標改定に当たっては、子どもたちの願いや保護者・地域の皆様のご意見もアンケートにより集約した。「どんな学校にしたいか」という問いに対する子どもたちの答えは、「みんな仲の良い学校」「思いやりのある優しい学校」が最も多く、次いで「いじめや差別のない学校」「明るく楽しい学校」だった。また、「子どもたちに期待する姿、付けたい力は」という問いに対する保護者の皆様の答えは、「誰とでも仲良く、協力できる力」が最も多く、次いで「コミュニケーション能力」「社会性・協調性」だった。教職員が願う子どもたちの姿としては、「人とつながる力」「自ら考え、判断し、行動する力」「互いに高め合おうとする力(学級力・学校力)」などが挙げられた。

こうした願いや思いから浮かび上がってきたキーワードが「つながり」であり、これを教育目標の冒頭に据えることにした。先月の「会津体験学習」では、6年担任が事前指導で、盛んに「つながり」を口にしていた。当日、活動班で声を掛け合い、互いに協力する子どもたちの姿が随所に見られた。先日の「きらきらカーニバル」も、学年を越えた温かい言葉のやり取りに満ちていた。学校目標に掲げた「つながり」は、学校の至る所で具現化されている。

先日、フリーアナウンサーの遠藤麻里氏の講演を拝聴する機会を得た。就職や本の出版が決まった時は、いずれも会社のトップが代わった時だったそうで、遠藤氏は、その方との出会い、ご縁があればこそその結果だったと振り返っておられた。彼女流に言えば「コネ」ということなのだが、これも正に人との「つながり」を大切にしてきたがゆえの結果だろう。

今回は、教育目標の「高め合い」について述べる。

